中学歴史プリント（書き取り）
弥生時代 No.16

名前

得点 ／20

1. 弥生時代に大陸から伝わり、実用品ではなく主に祭祀の道具として使われた青銅器のうち、釣鐘のような形をしたものを何という？
2. 弥生時代に北部九州を中心に多く出土している、中国から輸入された鏡を何という？
3. 高床倉庫の柱に取り付けられた、ネズミが倉庫の中に侵入するのを防ぐための工夫を何という？
4. 佐賀県にあり、周囲に濠（ほり）を巡らせた弥生時代の集落跡として知られる代表的な遺跡を何という？
5. 弥生時代に導入された金属器のうち、硬度が高く、刃先などの実用的な道具として生産力の向上に貢献したものを何という？
6. 縄文土器と比べて薄く作られ、煮炊きに適していたのはどのような温度で焼かれたから？
7. 57年に奴国の使者が訪れ、金印を授けたとされる後漢の皇帝を何という？
8. 邪馬台国の卑弥呼が魏の皇帝から贈り物を受けた様子など、当時の日本の様子が詳しく記されている中国の歴史書を何という？
9. 銅鐸が主な役割として使われた、豊作を祈るなどの行事を何という？
10. 弥生時代の日本が、中国の王朝へ進んだ文化や権威を求めて使者を送り、贈り物や献上品を送る外交形式を何という？
11. 「漢委奴国王」と刻まれた金印が発見された、福岡県にある場所はどこ？
12. 福岡県の志賀島で発見され、1世紀に中国の皇帝から日本の王に贈られたことを示す重要な遺物を何という？
13. 『後漢書』東夷伝などの歴史書において、弥生時代の日本列島に多数存在していたとされる政治的なまとまりを何という？
14. 江戸時代に金印が発見されたと伝えられている、現在の福岡県にある島は何という？
15. 金印が作られた紀元1世紀頃、地中海を中心に繁栄していた当時の巨大な帝国を何という？
16. 弥生時代に祭礼の道具として用いられ、指導者の地位の高さを示す象徴となった釣鐘状の青銅器を何という？
17. 弥生時代に大陸から伝わり、武器としてではなく、祭祀や儀式の際に用いられた青銅製の釣り鐘型の道具を何という？
18. 古代中国の記録などを通じて、当時の日本（倭）の状況を知ることができる資料のうち、出来事や制度を記録した書物を何という？
19. 弥生時代に大陸から金属器とともに伝わり、それまでの採集中心の生活から定住型の社会へ変化させる大きな要因となった技術を何という？
20. 福岡県の志賀島で発見された金印を授けた、弥生時代の中国の王朝を何という？

いちごドリル プリント

つづきの無料プリント
「弥生時代」のプリント一覧がひらきます

答え合わせ・解説 No.16 弥生時代

言えた　／20

① 書く
鉛筆で答えを書く

② 隠して言う
赤シートで赤字を隠す。白黒なら右の列を折る

③ 印を付ける
言えたら□にチェック

問	解説 ▼ここで折る	答え	言えた
1	銅鐸は主に近畿地方を中心に多く出土しており、祭祀の道具として用いられました。	銅鐸	□
2	漢鏡は、中国の漢王朝で鋳造された銅鏡で、高い鋳造技術による精巧な文様が特徴です。	漢鏡	□
3	柱の途中に板状の出っ張り（ネズミ返し）を取り付けることで、地面から登ってくるネズミがそれ以上進めないように工夫されていました。	ネズミ返し	□
4	吉野ヶ里遺跡は、周囲に二重の環濠と柵をめぐらせた巨大な集落跡です。	吉野ヶ里遺跡	□
5	鉄器は主に農具の刃先や、武器としての剣や矛などに加工されました。	鉄器	□
6	高温で焼くことで強度が上がり、煮炊きに適した薄い土器を大量に作ることができました。	高温	□
7	光武帝は、57年に九州の奴国から訪れた使者に対し、朝貢の返礼として金印を授けました。	光武帝	□
8	魏の歴史をまとめた『魏志』のうち、東夷伝という章に倭人に関する記述があり、一般に『魏志倭人伝』と呼ばれます。	魏志倭人伝	□
9	銅鐸は、このような祭りの場で、神聖な音を出したり、掲げられたりすることで、人々を統率し豊作を祈るために使われました。	祭り	□
10	朝貢は、中国の皇帝に対して周辺諸国の支配者が使者を派遣し、贈り物（貢ぎ物）を差し出す外交儀礼です。	朝貢	□
11	後漢の光武帝から授けられたとされる「漢委奴国王」の金印は、江戸時代、福岡県の志賀島で農作業中に偶然発見されたと伝えられています。	志賀島	□
12	1784年、福岡県の志賀島で農夫によって発見されました。	金印	□
13	当時の日本は「百余りの小国」に分かれていたと『後漢書』などに記されています。	小国	□
14	福岡県の志賀島で、農作業の最中に石の間から金印が発見されたと伝えられています。	志賀島	□
15	ローマ帝国は、地中海沿岸の全域を支配下に置き、高度な法整備や道路網、水道技術などを有していました。	ローマ帝国	□
16	銅鐸は青銅製の釣鐘状の道具で、当初は小型でしたが、次第に大型化しました。	銅鐸	□
17	銅鐸は、主に近畿地方を中心に分布しており、弥生時代の村の共同体で行われる祭りや儀式に使われたと考えられています。	銅鐸	□
18	『後漢書』や『魏志倭人伝（三国志）』などが代表的な歴史書です。	歴史書	□
19	稲作が定着したことで、人々は安定した食料を得られるようになり、収穫の時期に合わせて同じ場所に住み続ける定住生活が始まりました。	稲作	□
20	志賀島で発見された「漢委奴国王」と刻まれた金印は、1世紀頃、後漢の光武帝が日本の使者に授けたものと考えられています。	後漢	□

言えなかった用語ノート